

山形県立荒砥高等学校同窓会

関 東 支 部



支 部 報

スクールカラー・紫

令和4年6月

発行：山形県立荒砥高等学校同窓会 関東支部

事務局：〒214-0004 川崎市多摩区菅馬場 1-16-1-101 宮城文并方 TEL.044-945-2765



来年は創立七十五周年 母校の存続・ 発展への思い新たに

支部長 菅野孝雄
(昭和36年度卒)



こうした中、「生徒一人ひとりの希望実現、地域を支える有為な人材育成を」と、教職員の皆様には大変なご尽力を頂き、また、町からの支援の充実などを伺い、心強い思いを致しております。

この様な学校と地域社会、力合わせての取り組みは、荒砥高校の新たな特色、魅力を生み、存続、発展の確かな展望に繋がるものと思っております。

改めて、故郷の皆様のご奮闘に心から感謝申し上げます。

未曾有のコロナ禍、関東支部は事実上の休業状態が続いており、今年の「総会・懇親会」も断念せざるを得ませんでした。三年連続の中止となり、申し訳なくお詫び申し上げます。

来年には、コロナも終息し、開催出来るようにと願っております。その際には、皆さん挙げて参加下さいますようお願い申し上げます。

一段と緑の深まりを感じるこの頃、皆さん、如何お過ごしでしょうか。何時も、同窓会関東支部の運営にご協力頂き誠にありがとうございます。ところで、今年は、憲法施行七十五周年。そして来年は、母校・荒砥高校、創立七十五周年の年です。

「地域に、県立高等学校を」との住民の強い要望を背景に設立された荒砥高校。その歩みは、「教育の充実」を謳う憲法が歩んできた75年と軌を一にするもので、感慨深く、この先もそうあって欲しいとの思いを強くしております。

しかし、少子化による打撃は近年ますます深刻で、今年度新入生は16名との事です。

「県立高校としての存続をかけ、入学者の定員確保が大きな課題」(地主校長先生)とのご指摘に、改めて、母校の苦境を知る思いです。

2022年 役員名簿

(関東支部役員)

支部長	菅野 孝雄	昭和三十六年度卒
副支部長	藪田 眞大	昭和三十年度卒
事務局長	宮城 文并	昭和三十年度卒
幹事	坂井 英子	昭和三十一年度卒
丸川 國俊	昭和三十五年度卒	
風戸 強	昭和四十四年度卒	
守屋 一郎	昭和四十九年度卒	
長谷部 誠	昭和五十年年度卒	
会計監査	空席	
相談役	新保與四雄	昭和二十六年度卒
沼澤今朝夫	昭和二十六年度卒	
紺野 邦夫	昭和三十三年度卒	
参 与	荒川 繁夫	昭和二十九年度卒
照井 猪吉	昭和二十九年度卒	
安達 英雄	昭和二十九年度卒	
安孫子健一	昭和三十四年度卒	
坂田あや子	昭和三十四年度卒	

荒砥高校同窓会関東支部 2021 年度決算報告書

自 2021年4月1日～
至 2022年3月31日 (単位:円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前期繰越金	588,111	印刷費(支部報)	120,000
寄付金(98名)(振込95名、現金2名)	378,000	通 信 費	142,524
支部報・広告協賛金 6口	40,000	振込み手数料・通知料	21,594
雑収入(預金利子)	4	会 議 費	4,823
		その他(弔電I通)	4,070
		支 出 小 計	293,011
		次 期 繰 越 金	713,104
合 計	1,006,115	合 計	1,006,115
		※繰越金内訳	
		① 通 帳	666,367
		② 現 金	46,737
		計	713,104

上記の通り報告致します。
2022年3月31日

会 計 宮 城 文 并 ㊞

荒砥高校同窓会 関東支部 2021 年度会計監査報告書

上記2021年度決算報告書について、関係諸帳簿等を監査したところ、全て適正に処理されていることを認め、ここに報告いたします。

2022年4月15日

会計監査代理 菅野孝雄 ㊞

2022年3月上旬、沼澤春夫氏より病氣療養の為、会計監査辞任の申出があり、受理いたしました。突然の事で、新たに監査役を選任することが困難な事から、菅野孝雄が緊急に代行・監査致しました。ご了承ください。(支部長 菅野孝雄、事務局長 宮城文并)

事務局便り

コロナ禍、役員会も開けず、すっかり休業状態。なんとしても「支部報」発行をとの思いで取組んできました。如何でしたでしょうか。この1年間、98名の方から378千円のご寄付、6名の方より4万円の広告協賛金をお寄せ頂きました。ありがとうございました。

現役員の高齢化、病氣療養も大きな問題で、支部役員の更新、「若返り」は「会」の維持に不可欠、急を要する課題です。自薦・他薦、皆さんのご協力を重ねてお願いいたします。(宮城文并)

◆編集後記◆

ロシアによる残忍な侵略に憤り、平和の大切さを噛みしめながらの編集でした。ロシアの蛮行が直ちに中止される事を切望します。地主校長先生、青木同窓会長、菊地後援会長、小関観光協会会長には、お忙しい中、ご健筆を賜り感謝申し上げます。母校の充実、魅力化に、また、町の活性化にご尽力の話をお伺いし心強い限りです。有難く、御礼申し上げます。10名の同窓生からご寄稿頂きました。「八十路は未だ夢半ば」と、創作に余念のないお話しには感動し、勇気を頂戴する思いです。

一方、身体のおちこちの不具合にお悩みの方もおいでです。年齢を重ねる毎に、思わぬ不調、不具合に悩まされる事が多くなってきました。本人はもちろんご家族にとっても大変なことです。この「不具合」と、上手に付き合っていくければと思います。唯一のコミュニケーションツールである「支部報」、その発行には、多くの皆様のご協力が必要です。引き続きのご支援をお願い申し上げます。(藪田眞大)

